

2023 年度(公社)日本雪氷学会北信越支部総会

期日： 2023 年 6 月 3 日（土）13:20～14:10

場所： 富山大学理学部 1 号館 A238（A 会場）

（富山市五福 3190）

議事次第

議題 0．前回の議事録

議題 1．2022 年度北信越支部事業報告・収支決算報告および監査報告

議題 2．2023 年度北信越支部業計画案および予算計画

議題 3．2023 年度日本雪氷学会北信越支部賞受賞者と授賞理由

議題 4．2024 年度雪氷研究大会の開催場所（会場）と大会期間について

議題 5．支部役員の改選

議題 6．その他

公益社団法人日本雪氷学会北信越支部 2022年度総会議事録

日 時：2022年6月4日 13:15～14:00

場 所：アオーレ長岡内協働ルームおよびオンラインによるハイブリッド開催

出席者：29名（内、オンライン参加17名）

議 題：

議題 1. 2021年度北信越支部事業報告・収支決算報告および監査報告

議題 2. 2022年度北信越支部事業計画および予算計画

議題 3. 2022年度北信越支部賞受賞者の選定結果

議題 4. その他

(別紙1：2022年度北信越支部総会資料)

審議結果：

議題 1. 2021年度事業報告・収支決算および監査結果について別紙1のとおり報告され、承認された。なお、監事よりコロナが落ち着いた後もオンラインを活用すべきとの意見が出され、支部長より本部の基金にwithコロナやハイブリッド開催を支援する持続化給付金があると説明された。

議題 2. 2022年度事業計画・予算案が別紙1のとおり提案され、承認された。

議題 3. 2022年度北信越支部賞受賞者の選定結果が支部長より別紙1のとおり報告された。

議題 4. ハイブリッド開催について、現地で研究者に会い議論することは研究の発展や若手の育成に繋がるため、対面での大会開催を大事にすべきとの意見が出された。また、幹事長より役員名簿に変更がある場合、連絡いただくようにとの説明がされた。

2022 年度北信越支部 事業報告

1. 研究発表会

2022 年度北信越支部研究発表会・製品発表検討会（2022 年度北信越支部大会）

日時：2022 年 6 月 4 日（土）9:30～17:00

場所：アオーレ長岡内協働ルームおよびオンラインによるハイブリッド開催

参加者：64 名（内、オンライン参加 43 名）

研究発表：21 件

プログラム：

ハイブリッド開催形式の説明

9:30～ 9:45

研究発表会 9:45～12:00

総会 13:15～14:00

支部賞授賞式 14:00～14:15

研究発表会 14:30～17:00

2. 研修会等2.1 講演会

今年の雪速報会 2021-22

日時：2022 年 5 月 25 日（水）13:00～16:30

場所：オンライン開催（Zoom）

主催：NPO 法人水環境技術研究会

共催：（公社）日本雪氷学会北信越支部，（国研）防災科学技術研究所雪氷防災研究センター，（一社）北陸地域づくり協会

参加者：150 名（定員）

プログラム：

開催挨拶：陸旻皎（水環境技術研究会）

第一部：今年の雪の気象学的特徴について 司会：平島寛行（防災科学技術研究所）

北陸地方を中心とした 2021/22 冬の天候と降雪の特徴：山本浩（新潟地方気象台）

2021/22 冬季の大雪をもたらした大気循環場の特徴：本田明治（新潟大学）

第二部：今年の雪への対応について 司会：勝島隆史（森林総合研究所）

長岡国道事務所における今冬の取り組み：谷口雄一（国土交通省北陸地方整備局）

NEXCO 東日本新潟支社における今年の雪氷対策とその効果：久保竜志（東日本高速道路株式会社）

令和 3 年度の新潟県の道路除雪対応について：伊藤匠（新潟県土木部）

島道鉱泉の雪崩：上石勲（防災科学技術研究所）

国道 252 号あいよし橋の雪崩流出について：大竹和彦，三瓶融（福島県南会津建設事務所）

R4 豪雪 その被害と課題：吉越哲也（妙高市総務課）

第三部

総合討論：瀬戸民枝（新潟県糸魚川地域振興局）

閉会挨拶：上石勲（防災科学技術研究所）

2022 年度雪氷防災研究講演会 最近の大雪災害とその対応—新潟県上越地方での取り組み—

日時：2022 年 11 月 15 日（火）15:00～17:00

場所：オンライン開催（Zoom または YouTube）

主催：(国研) 防災科学技術研究所

後援：(公社) 日本雪氷学会北信越支部，日本雪工学会上信越支部

参加者：59 名

プログラム：

講演

最近の雪氷災害の特徴と防災科学技術研究所雪氷防災研究センターでの取り組み：中村一樹（防災科学技術研究所）

上越市における最近の大雪災害とその対応：名倉浩（上越市道路課雪対策室）

妙高市における最近の大雪災害とその対応：吉越哲也（妙高市総務課）

上越地域における新潟県が管理する道路の大雪の概要とその対応：沼屋賢一（新潟県上越地域振興局地域整備部維持管理課）

一昨冬と昨冬の大雪の記録を残して活かすには：上石勲（防災科学技術研究所）

意見交換

上越地方から全国の雪国への発信・東京への発信

2.2 見学会

第 27 回雪形ウォッチングミニシンポジウム

日時：2022 年 6 月 12 日（日）10:00～12:00

場所：オンライン開催（Zoom）

主催：国際雪形研究会，(公社) 日本雪氷学会北信越支部

参加者：オンライン接続 50（推定 100 名）

2.3 学習会

第 15 回雪氷防災研究センター・新潟地方気象台合同談話会

日時：2022 年 12 月 15 日（木）13:20～17:00

場所：新潟地方気象台 9F 会議室及び Zoom ミーティング

共催：(国研) 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター，新潟地方気象台，(公社) 日本雪氷学会北信越支部

参加者：27 名（内，オンライン参加 13 名）

プログラム：

開会挨拶：西尾利一（新潟地方気象台）

航空レーザ測量により判明したニセコアンヌプリ山域の積雪分布の不均一性：伊藤陽一（雪氷防災研究センター）

季節予報の気象学（エル・ラニの冬季を中心として）：斉藤雄一（気象台）

2022 年 4 月に山形県姥ヶ岳で見られたクレバスについて：荒川逸人（雪氷防災研究センター）

積雪の光学特性と衛星リモートセンシング：谷川朋範（気象研究所）

スマートフォン画像を用いた AI 路面判定システムの開発：中村一樹（雪氷防災研究センター）

閉会挨拶：中村一樹（雪氷防災研究センター）

Dr. ナダレンジャーの災害環境実験教室

講師：納口恭明・罇 優子（防災科学技術研究所）

日時：2022 年 12 月 21 日（水）16:30～18:00

場所：新潟大学災害・復興科学研究所 1F プレゼンテーションスペース

共催：新潟大学災害・復興科学研究所，(公社) 日本雪氷学会北信越支部

参加者：20 名

最近の雪崩の研究から

講師：西村浩一（名古屋大学名誉教授、日本雪氷学会会長）

日時：2023年1月12日（水）15:30～16:45

場所：新潟大学災害・復興科学研究所 1F プレゼンテーションスペース（ハイブリッド開催の予定）

共催：新潟大学災害・復興科学研究所，（公社）日本雪氷学会北信越支部

参加者：49名

2.4 講習会

積雪観測&雪結晶撮影講習会

日時：2022年12月17日（土）13:00～15:00

場所：オンライン開催（Zoom）

共催：（公社）日本雪氷学会北信越支部，（公社）日本雪氷学会関東・中部・西日本支部，（国研）防災科学技術研究所

参加者：129名

プログラム：

雪結晶で読み解く雲の心：荒木健太郎（気象研究所）

雪結晶・積雪粒子撮影法：藤野丈志（株式会社興和）

積雪の変化と観測方法：勝島隆史（森林総合研究所）

3. 普及・啓発

3.1 支部ホームページの運営（<http://www.seppyo.org/hse/>）

大会プログラム・予稿集の掲載，および学習会等イベントの広報などの情報を随時更新

3.2 教育普及に関する共催事業

積雪観測&雪結晶撮影講習会

日時：2022年12月17日（土）13:00～15:00

場所：オンライン開催（Zoom）

共催：（公社）日本雪氷学会北信越支部，（公社）日本雪氷学会関東・中部・西日本支部，（国研）防災科学技術研究所

参加者：129名

プログラム：

雪結晶で読み解く雲の心：荒木健太郎（気象研究所）

雪結晶・積雪粒子撮影法：藤野丈志（株式会社興和）

積雪の変化と観測方法：勝島隆史（森林総合研究所）

4. 2022年度北信越支部賞の表彰

大沼賞：

伊藤陽一 会員（国立研究開発法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター 主幹研究員）

「雪崩の内部構造とダイナミクス解明に関する研究への貢献」

雪氷奨励賞：

勝山祐太 会員（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所十日町試験地 任期付研究員）

「地球温暖化が積雪に及ぼす影響評価および固体降水粒子の観測研究」

雪氷功労賞：

佐藤和秀 会員（長岡工業高等専門学校 名誉教授）

「長年にわたる雪氷研究と支部活動への貢献」

5. 出版事業

5.1 支部機関誌

「雪氷北信越」第42号を7月に発行した。北信越支部ホームページにて公開。

6. 管理事項

6.1 北信越支部総会

2022年6月4日（土），アオーレ長岡内協働ルームおよびオンラインによるハイブリッド開催

6.2 理事・幹事会議

第1回理事・幹事合同会議：2022年5月13日（金）～5月19日（木），文書審議

第2回理事・幹事合同会議：2022年5月25日（水）～6月1日（水），文書審議

第3回理事・幹事合同会議：2022年12月13日（火），オンライン開催（Zoom）

6.3 顧問・評議員会

2022年12月13日（火），オンライン開催（Zoom）

2023年度(公社)日本雪氷学会北信越支部総会
2022 年度北信越支部 収支決算報告

○2022年度 北信越支部に関する会計

		2022年度予算 (A)	2022年度執行 (B)	増減 (B)-(A)
収入		288,000	66,727	△ 221,273
会費収入	支部会員費	0	0	0
事業収入	研究発表会収入	35,000	0	△ 35,000
	研修会講演会等収入	10,000	0	△ 10,000
	出版収入	10,000	4,500	△ 5,500
雑収入		0	0	0
本部からの繰り入れ		233,000	62,227	170,773
支出		288,000	66,727	△ 221,273
事業費		195,000	66,727	△ 128,273
1調査・研究		0	0	0
2研究会研修会	研究発表会	70,000	4,775	△ 65,225
	研修会等	25,000	0	△ 25,000
	普及・啓発	25,000	7,370	△ 17,630
	褒賞	25,000	10,197	△ 14,803
3出版事業	支部機関誌	50,000	44,385	△ 5,615
	その他出版	0	0	0
管理費		93,000	0	△ 93,000
事務局費		8,000	0	△ 8,000
会議費		85,000	0	△ 85,000
支払手数料		0	0	0
役員選挙費		0	0	0
雑費		0	0	0

棚卸資産

機関誌名	原価	2021年度末(22/3/31)		2022年度末(23/3/31)	
		在庫数	資産額	在庫数	資産額
雪氷北信越No.41	957	7	6,699	-	0
雪氷北信越No.42	878	-	-	7	6,146
合 計			6,699		6,146

2022 年度 監査報告書 (飯田監事)

2023 年 5 月 16 日

公益社団法人日本雪氷学会北信越支部 監査報告書

公益社団法人日本雪氷学会
北信越支部長 河島 克久 殿

公益社団法人日本雪氷学会
北信越支部監事

飯田 肇 

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までの 2022 年度における北信越支部会計及び業務の監査を、次のとおり報告する。

1. 監査の方法

- (1) 会計監査について、予算執行内容、予算規模、収支バランスについて確認した。
- (2) 業務監査について、業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

(1) 会計監査

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日に実施された北信越支部の予算執行内容、予算規模、収支バランスを監査した結果、正確妥当なことを認めます。

(2) 事業監査

北信越支部の活動は、別途作成された支部活動報告書のとおり、実施されていたことを認めます。

(3) その他

コロナ禍での事業運営であったが、リモート事業と対面事業がうまくバランスされて実施されていた。今後は、対面事業の割合が増すと考えられるが、リモート事業の利点も活かしつつ運営にあたっていただきたい。

2022 年度 監査報告書 (長峰監事)

2023 年 5 月 13 日

公益社団法人日本雪氷学会北信越支部 監査報告書

公益社団法人日本雪氷学会
北信越支部長 河島 克久 殿

公益社団法人日本雪氷学会
北信越支部監事

長峰 聡 

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までの 2022 年度における北信越支部会計及び業務の監査を、次のとおり報告する。

1. 監査の方法

- (1) 会計監査について、予算執行内容、予算規模、収支バランスについて確認した。
- (2) 業務監査について、業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

(1) 会計監査

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日に実施された北信越支部の予算執行内容、予算規模、収支バランスを監査した結果、正確妥当なことを認めます。

(2) 事業監査

北信越支部の活動は、別途作成された支部活動報告書のとおり、実施されていたことを認めます。

(3) その他

2022 年度研究会等の報告によると、例えば積雪観測&雪結晶撮影講習会には 130 名近い参加者があった。これはオンライン開催の効果により、遠隔地居住であるが関心がある方々の参加が全体数を押し上げたものと推測している。

新型コロナが 5 類に移行して社会活動も平常に戻りつつあるが、イベントの目的やオンライン効果を勘案して、今後も可能なものはオンライン開催又は併用を検討頂きたい。

また、当学会の単独開催等、主催者状況によって可能であれば、短時間で良いので、当学会の PR や入会案内を行うことが望ましいと考える。

2023 年度支部事業計画案ならびに支部予算案

2023 年度 事業計画案

事業分類	事業小分類	事業名	担当	予算の有無
1調査・研究	調査			
	研究			
2研究会研修会	研究発表会	北信越支部 研究発表会・製品発表検討会の開催（富山市またはオンライン）	北信越支部	有
	研修会等	北信越支部 講演会の開催（2回）	北信越支部	有
		北信越支部 見学会の開催（1回）	北信越支部	有
		北信越支部 学習会の開催（3回）	北信越支部	有
		北信越支部 積雪観測講習会の開催（1回）	北信越支部	有
	普及・啓発	北信越支部 ホームページの運営	北信越支部	無
		北信越支部 教育普及に関する事業の開催（2回）	北信越支部	有
	褒賞	2023年度北信越支部賞の表彰	北信越支部	有
3出版事業	学会誌			
	支部等機関誌	北信越支部 機関誌「雪氷北信越」43号の刊行	北信越支部	有
4その他	管理事項	北信越支部 総会の開催	北信越支部	無
		北信越支部 理事・幹事合同会議の開催	北信越支部	有
		北信越支部 顧問・評議委員会の開催	北信越支部	有

2023 年度 予算案

○2023年度 北信越支部に関する予算案

		2022年度予算 (A)	2023年度予算 (B)	増減 (B)-(A)
収入		288,000	288,000	0
会費収入	支部会員費	0	0	0
事業収入	研究発表会収入	35,000	35,000	0
	研修会講演会等収入	10,000	10,000	0
	出版収入 北信越支部機関誌	10,000	10,000	0
雑収入		0	0	0
本部からの繰り入れ		233,000	233,000	0
支出		288,000	288,000	0
事業費		事業費 計 195,000	195,000	0
1調査・研究		0	0	0
2研究会研修会	研究発表会 北信越支部大会	70,000	70,000	0
	研修会等 講演、見学、学習会	25,000	25,000	0
	普及・啓発 教育普及事業	25,000	25,000	0
	褒賞 北信越支部褒賞費	25,000	25,000	0
3出版事業	支部機関誌 北信越支部機関誌	50,000	50,000	0
	その他出版	0	0	0
管理費		管理費 計 93,000	93,000	0
事務局費		8,000	8,000	0
会議費		85,000	85,000	0
支払手数料		0	0	0
役員選挙費		0	0	0
雑費		0	0	0

2023 年度日本雪氷学会北信越支部賞受賞者と授賞理由

2023 年度北信越支部賞受賞候補者選定委員会委員長 上石 勲

2023 年 3 月 31 日から 4 月 13 日までの間、リモート会議システム (Zoom) とメールによる審議を併用し、2023 年度北信越支部賞受賞候補者選定委員会 (上石勲 (委員長)、飯田肇、石坂雅昭、上村靖司、オブザーバ: 河島克久 (支部長)) が開催された。推薦された支部賞候補者から、推薦書ならびに参考資料に基づき慎重に審議した結果、2 件が受賞候補に選定された。その後、4 月 14 日～24 日の 2023 年度第 1 回北信越支部理事・幹事合同会議 (文書審議) で承認された。

2022 年度日本雪氷学会北信越支部賞受賞者と授賞理由は以下の通りである。

大 沼 賞:

山口 悟 会員

(国立研究開発法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター 総括主任研究員)

件 名:

湿雪の水分移動と比表面積の測定に基づく積雪微細構造に関する先駆的研究

理 由:

山口悟会員は、2002 年より防災科学技術研究所において、積雪の内部構造を対象とした実験・観測研究に取り組んできた。海外の積雪研究に対して温暖な日本の積雪環境¹⁾に適した研究として、湿雪の研究で国際的にリードすることに注力し、積雪中の水分移動に関する研究を進めてきた²⁾。その先駆的成果として、様々な粒径の積雪に対して重力排水実験を行い、van Genuchten の毛管力の推定式で用いられるパラメータに関する粒径依存性の式を新たに作成し³⁾、これまで扱われていた水分特性に関する古い近似式を一新した。さらに、自然積雪へも拡張し、粒径と密度に依存した関係を構築して発展させた⁴⁾。得られた関係式は、現在 SNOWPACK、CROCUS、SMAP などの国内外の積雪変質モデルの水分移動過程のモジュールに加え⁵⁾、国内外の 2 次元・3 次元の積雪内部の水分移動のモデルで基礎的な関数として扱われ⁶⁾、これらを用いた研究に大きく貢献している。

また、上記の水分移動に関する研究において、毛管力は比表面積と同じ単位を持つ粒径と密度の比の関数として近似できることを見出した。同時期に海外では雪粒子の粒径に関する客観的な測定方法が問題となっており、比表面積が客観的指標として注目されていた。比表面積は水分移動だけでなく様々な雪氷物理現象に関連することからその測定に関する研究を進め⁷⁾、雪氷防災研究センターの降雪粒子観測環境を生かして、信頼性の高いガス吸着法を用いて様々な降雪粒子に対して比表面積の測定を行い、気象条件と降雪粒子の比表面積の関係を導出した⁸⁾。

このように、研究環境の特性を生かした様々な実験・観測から得られた積雪粒子に関する研究成果は国際的な雪氷研究に大きく貢献している。近年では、研究をさらに発展すべく最先端の装置 (雪氷用 X 線 CT や雪氷用 MRI) を導入し、得られた知見の精密化に取り組むと同時にこれらを使用した研究における若手の育成を積極的に進めてきている^{9),10)}。

このように、山口会員は、2002 年以来長年にわたり温暖地域の積雪内部構造に関する実験・観測に取り組み、湿雪内の水分移動や微細構造に関する基本的で先駆的な研究成果をあげており、以上のことから、これらの業績は大沼賞に相応しい。

関 連 論 文

- 1) Yamaguchi, S., K. Iwamoto, S. Nakai, 2013: Interannual fluctuations of the relationship between winter precipitation and air temperature in the heavy-snowfall zone of Japan. *An. Glacio.*, 54, 183-188. <https://doi.org/10.3189/2013AoG62A302>
- 2) Yamaguchi, S., H. Hirashima, Y. Ishii, 2018: Year-to-year changes in preferential flow development in a seasonal snowpack and their dependence on snowpack conditions. *Cold Reg. Sci. Tech.*, 149, 95-105. <https://doi.org/10.1016/j.coldregions.2018.02.009>
- 3) Yamaguchi, S., T. Katsushima, A. Sato, T. Kumakura, 2010: Water retention curve of snow with different grain sizes. *Cold Regions Science and Technology*, <https://dx.doi.org/10.1016/j.coldregions.2010.05.008>.
- 4) Yamaguchi, S., K. Watanabe and T. Katsushima, A. Sato, T. Kumakura, 2012: Dependence of the water retention curve of snow on snow characteristics, *Annals of Glaciology*, 53, 6-12.
- 5) Hirashima, H., S. Yamaguchi, A. Sato, M. Lehning, 2010: Numerical modeling of liquid water movement through layered snow based on new measurements of the water retention curve. *Cold Regions Science and Technology*, <https://dx.doi.org/10.1016/j.coldregions.2010.09.003>.
- 6) Hirashima, H., S. Yamaguchi, T. Katsushima, 2014: A multi-dimensional water transport model to reproduce preferential flow in the snowpack. *Cold Reg. Sci. Tech.*, 108, 80-90. <https://doi.org/10.1016/j.coldregions.2014.09.004>.
- 7) Yamaguchi, S., H. Motoyoshi, T. Tanikawa, T. Aoki, M. Niwano, Y. Takeuchi and Y. Endo, 2014: Application of snow specific surface area measurement using an optical method based on near-infrared reflectance around 900-nm wavelength to wet snow zones in Japan. *Bull. Glaciol. Res.*, 32, 55-64. <https://dx.doi.org/10.5331/bgr.32.55>.
- 8) Yamaguchi, S., M. Ishizaka, H. Motoyoshi, S. Nakai, V. Vionnet, T. Aoki, K. Yamashita, A. Hashimoto, and A. Hachikubo, 2019: Measurement of specific surface area of fresh solid precipitation particles in heavy snowfall regions of Japan. *The Cryosphere*, 13, 2713-2732. <https://doi.org/10.5194/tc-13-2713-2019>.
- 9) Ishimoto H., S. Adachi, S. Yamaguchi, T. Tomonori, T. Aoki, K. Masuda, 2018: Snow particles extracted from X-ray computed microtomography imagery and their single-scattering properties. *Journal of Quantitative Spectroscopy & Radiative Transfer*, 209, 113-128. <https://doi.org/10.1016/j.jqsrt.2018.01.021>
- 10) Adachi, S., S. Yamaguchi, T. Ozeki and K. Kose, 2020, Application of a magnetic resonance imaging method for nondestructive, three-dimensional, high-resolution measurement of the water content of wet snow samples, *Frontiers in Earth Science*, 8, id.179.

雪氷功労賞：

町田 誠 会員

(町田建設株式会社代表取締役社長)

件 名：

長年にわたる雪崩を中心とした雪氷研究と支部活動への貢献

理 由：

町田誠会員は、新潟県中越地域を拠点として、1970年代から道路や集落、スキー場などの雪崩対策に関する業務を遂行しており、雪崩に対する現地対応については日本でも屈指の研究者・技術者である。新潟県中越地方の山間部を通過する国道17号では、町田氏は長年の雪崩発生状況調査の蓄積から、それぞれの雪崩斜面の特性に合った対策を道路管理者とともに検討し、冬期の安全な通行確保に当たってきた（例えば関連文献1）。また、人工的に雪崩を発生させる技術についても、長年の調査研究により、斜面積雪の爆破による雪崩のリスクを取り除く技術を確立してきた（例えば関連文献2）。これらの研究成果により町田氏は1999年度日本雪氷学会北信越支部大沼賞を受賞している。

支部活動の面では、支部理事（1991～2010年度）、支部監事（1988～1990年度、2015～2020年度）、支部評議員（2011年度～2014年度、2021～2022年度）を務めており、北信越支部創立時から今日に至るまで40年以上にわたって支部の円滑な運営と発展に貢献した。

また、日本雪氷学会主催の雪崩対策の基礎技術研修会では、開始時からその企画・運営に中心にかかわるとともに講師を務めてきた。30回にもわたるこの研修会の受講生は1000名近くを数え、雪崩対策の技術向上と技術者の育成に貢献してきた。さらに、日本雪氷学会雪崩分科会でも長年活躍され、2020年度からはその分科会長として、雪崩に関する調査研究の指導的立場を担っている。

以上のように、町田誠会員の雪氷学、特に雪崩に関する技術的、学術的貢献及び北信越支部活動に果たした貢献は多大なものであり、雪氷功労賞に相応しい。

関 連 論 文

- 1) 町田 誠，早川典生，松井富栄，町田 敬，2010：新潟県湯沢町芝原で8年間観察した全層雪崩．日本雪工学会誌，**26**(4)，197-202，doi.org/10.4106/jsse.26.197.
- 2) 町田 誠，早川典生，町田 敬，坂上 悟，2007：人工雪崩工法に関する研究．雪氷，**69** (4)，457-469，doi.org/10.5331/seppyo.69.457.

2024 年度雪氷研究大会の開催場所（会場）と大会期間について

日本雪氷学会北信越支部長
河島 克久

2024 年度の雪氷研究大会は、日本雪氷学会北信越支部と日本雪工学会上信越支部が協力して大会の準備を進めていきます。「雪氷研究大会のガイドライン」によると、大会前年の 5 月の両学会の理事会に開催場所（会場）と大会期間の候補を提出し、承認を受けることになっています。

開催場所と大会期間について、両学会で協議を行った結果、交通の利便性、会場・宿泊施設の充実、会員数の多さに加えて、2024 年が中越地震から 20 周年を迎えること等の理由から、長岡市での開催が良いのではないかと考えるに至りました。現在、長岡観光コンベンション協会のご協力を得て、会場の候補であるアオーレ長岡の確認や早期予約の可能性を検討しているところです。アオーレ長岡は、大会開催に十分な部屋数・広さを有していることが確認でき、使用料的にも問題はないと考えられます。早期予約については「アオーレ長岡 早期利用申込希望聞き取り票」を長岡市役所に提出しており、下記に示した第 1 候補～第 3 候補候補の開催期間で検討しております。会場の早期予約の決定は 2023 年 12 月上旬ごろとのことです。長岡観光コンベンション協会からの連絡では「3 つの候補の内何れかの日程を確保できる見込み」とのことです。

開催場所： 新潟県長岡市

開催会場： アオーレ長岡（新潟県長岡市大手通 1 丁目 4 番地 10）

開催期間：

第 1 候補 2024 年 9 月 23 日（月曜日）～ 9 月 26 日（木曜日）

第 2 候補 2024 年 9 月 16 日（月曜日）～ 9 月 19 日（木曜日）

第 3 候補 2024 年 9 月 8 日（日曜日）～ 9 月 11 日（水曜日）

上記の開催場所（会場）と大会期間につきましては、日本雪氷学会第 1 回理事会（2023 年 5 月 22 日開催）及び日本雪工学会第 1 回理事会（2023 年 5 月 29 日開催）で審議され承認されたことをご報告いたします。2024 年度の雪氷研究大会の準備にあたっては、日本雪氷学会北信越支部の会員各位の多大なるご支援が必要ですので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

以上

会場規模の参考データ

発表会場・公開講演会・各種会合

市民交流ホール A スクール形式 234 名

市民交流ホール B スクール形式 84 名

市民交流ホール C スクール形式 84 名

市民交流ホール D スクール形式 60 名

第 1・第 2 協働ルーム スクール形式 54 名

多目的室、会議室 計 6 室

ホワイエ（230m²、一般市民の出入りあり）

雪氷楽会

アリーナ（土足 OK 体育館）・ナカドマ（市民憩いの場）

2021-2022 年度(公社)日本雪氷学会北信越支部役員(2023 年 6 月 3 日改選前)

支部長 (*本部理事)

河島克久* 新潟大学災害・復興科学研究所教授

副支部長

杉浦幸之助 富山大学学術研究部都市デザイン学系教授

竹内由香里 森林総合研究所十日町試験地長

支部顧問

花角英世 新潟県知事

新田八朗 富山県知事

大塚昇一 小千谷市長

関口芳史 十日町市長

宮元 陸 加賀市長

梅村晃由 長岡技術科学大学名誉教授

神田健三 中谷宇吉郎雪の科学館顧問

和田 惇 元北陸建設弘済会理事長

支部評議員

小岩徹郎 新潟県知事政策局長

出来田肇 富山県生活環境文化部長

高橋英樹 小千谷市建設課長

吉田健一 十日町市建設部長

古川義純 中谷宇吉郎雪の科学館館長

池野正志 (株)興和代表取締役社長／新潟県融雪技術協会会長

石坂雅昭 防災科学技術研究所客員研究員

和泉 薫 新潟大学名誉教授

遠藤八十一 国際雪形研究会代表／元森林総合研究所十日町試験地主任

川田邦夫 雪環境研究塾塾長／富山大学名誉教授

佐藤和秀 長岡工業高等専門学校名誉教授

新屋 輝 北陸電力送配電(株)電力流通部送電チーム統括課長

鈴木啓助 信州大学名誉教授・特任教授／大町山岳博物館館長

竹井 巖 元北陸大学薬学基礎教育センター教授

古川大助 (株)アルゴス代表取締役

町田 誠 町田建設(株)代表取締役

丸山敏介 新潟電機(株)代表取締役

横山宏太郎 元中央農業総合研究センター

支部理事 (*本部理事)

勝島隆史* 森林総合研究所十日町試験地主任研究員

上石 勲 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター特任参事

上村靖司* 長岡技術科学大学工学部機械系教授

熊倉俊郎 長岡技術科学大学工学部環境社会基盤系准教授

齋藤隆幸 (株) スノーテック新潟代表取締役
島田 互 富山大学学術研究部理学系准教授
瀬戸民枝 新潟県魚沼地域振興局地域整備部部長
中井専人 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター総括主任研究員
堀 雅裕 富山大学学術研究部都市デザイン学系教授
本田明治 新潟大学理学部教授
本吉弘岐* 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター主任研究員
松元高峰* 新潟大学災害・復興科学研究所特任准教授
山口 悟* 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター総括主任研究員
山田忠幸 山田技研株式会社代表取締役
渡辺幸一 富山県立大学工学部教授

支部監事

飯田 肇 立山カルデラ砂防博物館学芸課長
長峰 聡 元新潟地方気象台観測予報グループ

支部幹事長 (*本部理事)

本吉弘岐* 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター主任研究員

支部幹事 ¹⁾庶務, ²⁾会計, ³⁾雪氷北信越編集, ⁴⁾支部だより, ⁵⁾HP の各担当者

伊藤陽一 ³⁾ 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター主幹研究員
小川克昌 (有) アサップ代表取締役
加藤 務 テクノかとう代表
加藤正明 長岡市立科学博物館学芸員
木戸瑞佳 富山県環境科学センター副主幹研究員
佐々木明彦 国土舘大学文学部准教授
杉原幸信 長岡技術科学大学工学部機械系助教
砂子宗次朗 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター研究員
新屋啓文 ¹⁾ 新潟大学災害・復興科学研究所准教授
浜田 崇 ²⁾ 長野県環境保全研究所自然環境部主任研究員
平島寛行 ⁵⁾ 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター主任研究員
福井幸太郎 立山カルデラ砂防博物館主任学芸員
藤野丈志 (株) 興和水工部技師長
藤本明宏 福井大学学術研究院工学系部門准教授
町田 敬 ⁴⁾ 町田建設(株) 取締役
皆已幸也 石川県立大学生物資源環境学部准教授
村井昭夫 石川県立大学客員研究員
吉田あみ 新潟県十日町地域振興局地域整備部治水課主任

公益社団法人日本雪氷学会北信越支部 支部規程施行内規

- 第1条 本支部は、公益社団法人日本雪氷学会支部規程第1条に基づき、公益社団法人日本雪氷学会北信越支部と称する。
- 第2条 本内規は、支部規程第2条2項に基づき、本支部における支部規程の施行に必要な事項を定めるものである。
- 第3条 本支部の会員は、北信越地方（新潟県、長野県、富山県、石川県、福井県）に在住する公益社団法人日本雪氷学会の会員とする。また、他支部に所属する会員であっても、本支部に所属することを希望する場合は、重複所属することを妨げない。
- 第4条 本支部に次の役員をおく。
- 支部長 1 名
 - 副支部長 若干名
 - 支部顧問 若干名
 - 支部評議員 若干名
 - 支部理事 若干名（副支部長、幹事長を含む）
 - 支部監事 2 名
 - 支部幹事 若干名
- 第5条 支部長は、支部からの推薦に基づき、定款施行細則第28条により、定款第20条に定める理事の中から理事会において選出する。
- 第6条 副支部長、支部理事および支部監事は支部総会において、支部会員の中から選任する。
- 第7条 支部の幹事長は支部理事の中から支部長が委嘱する。支部幹事は支部会員の中から支部長が委嘱する。
- 第8条 支部長は本支部を代表しその会務を総理する。
- 第9条 副支部長は支部長に事故ある場合、その職務を代行する。
- 第10条 支部理事会は支部長、副支部長、支部理事で構成され、支部会務執行に必要な協議を行う。支部理事会の議長は支部長とする。
- 第11条 支部監事は支部の事業ならびに会計を監査する。
- 第12条 支部幹事会は幹事長、幹事で構成され、支部長の命を受けて支部事業の企画及び会計ならびにその他の会務を処理する。
- 第13条 支部長の任期は2年とする。ただし連続する2期を超えて在任することはできない。支部長を除く役員の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。その他は定款第24条の定めるところによる。
- 第14条 支部顧問および支部評議員は支部理事会の議決を経て支部長がこれを委嘱する。支部顧問及び支部評議員は本支部の発展に寄与するものとする。
- 第15条 本支部は毎年1回定時総会を開くほか必要に応じ臨時総会を開く。
- 第16条 総会においては下記事項の承認を受けなければならない。
- 事業報告・収支決算報告
 - 事業計画・予算案
 - 役員の決定
 - 支部規程施行内規の変更
 - その他重要な事項
- 第17条 本支部の事業年度は毎年4月より翌年3月までとする。

附 則

本内規は2013年5月11日より施行する。